

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070104249
法人名	有限会社 MURO
事業所名	グループホーム 太陽のおうち
訪問調査日	平成20年 10月 1日
評価確定日	平成20年 10月31日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3070104249		
法人名	有限会社 MURO		
事業所名	グループホーム 太陽のおうち		
所在地	〒649-6317 和歌山市山口西385-1 (電話)073-461-6522		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年10月1日	評価確定日	平成20年10月31日

【情報提供票より】(平成20年9月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成16年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 14.5	

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有( 300,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(平成20年9月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	森医院 ・ 中西歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯に位置し、平屋造りで中庭を囲んだ2ユニットはそれぞれ家具や調度品が程良く配置され落ち着いた雰囲気となっている。「その人らしさ」を尊重する職員の温かい支援のもと、入居者はゆったりとした時を過ごしている。認知症ケア指導者でもある運営者の理念と思いが職員にも浸透しており、記録の周知徹底により職員間での情報の共有を図り質の高いサービスが提供できるよう積極的に取り組んでいる。設立の際に地域住民の理解を得る為に話し合いを重ねた結果、地域と相互の協力体制が確立され、ホームが地域における認知症ケアの拠点ともなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議への行政からの参加について、引き続き市や支所へ働きかけているが実現には至っていない。地域包括支援センターからは社会福祉士の参加が得られることになった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を踏まえて、運営者・職員全員で今回の自己評価を実施し、更なる改善点を探りながら日々のサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ほぼ2ヶ月に1回開催されていて、自治会長・民生委員・家族代表の参加はあるが、現在のところはメンバーに対しての認知症ケアへの理解の周知が主な内容で、参加者の意見をサービス向上に活かせるまでには至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームの行事への参加や日々の訪問など、日頃より家族の訪問の機会が多いので、職員は話しやすい環境・関係作りに努め、いつでも家族と話し合える場を設けている。意見等は全員で共有しサービスに反映できる体制となっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	管理者が地域住民であることから地域との繋がりは多く、相互の協力体制が確立されている。近隣の人がホームを活用したり、外出した入居者を見守ってくれたり、双方が支え合う関係となっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“その人らしく” “安全に” “穏やかに” をキーワードに、事業所と地域で共に支え続けて行くことをイメージしながら、誰にでもわかりやすい言葉で理念を表している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は会議等で理念の共有を図り、また日々入居者と一緒に過ごす中で、『いっしょにいるのが楽しいよ』という理念を実感しながら、毎日の具体的なケアに役立っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は地域住民であり、開所に向けて話し合いを重ね、相互の協力体制が確立されている。ホームの行事やカラオケへの住民参加や、近隣の幼稚園児の訪問もあり、地域との交流は積極的に行われている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・職員共に自己評価に取り組み、改善点を探りながら事業所の質の向上を目指している。前回より市との連携や職員の勤務体制の改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回に改善提案されたメンバー構成については、次回から地域包括支援センターの社会福祉士の参加が決まり、更に支所への働きかけも継続中である。会議の内容はメンバーに向けての認知症の理解の周知が中心で、意見交換までには至っていない。		運営推進会議は様々な立場の人達が一同に会する貴重な機会であり、活発な意見交換の場となるよう、監督権者である市の担当者や身近の一般住民の参加も大切で、引き続き事業所の取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は地域での認知症サポーター養成講座に積極的に関わっており、講師を務めることも多く、養成講座の事務局である市と行き来する機会が多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、カラー印刷新聞『太陽のおうち』と共に入居者の生活の様子を家族に報告している。面会の機会も多いので、その都度情報を提供している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族等と話しやすい関係作りに努めながら、いつでも話せる機会を設けている。家族の意見は記録し、会議やミーティングの際に全員で共有してサービスに活かせる体制となっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間に退職異動はないが、代わる場合も他の職員の係わりの中で入居者へのダメージは回避出来るように取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に合った外部研修の機会を設けている。毎月の内部研修・ユニット毎の勉強会・ミーティング等で学びつつ、日々の業務記録の徹底でスキルアップを図っている。また、マニュアル習熟度自己評価を定期的に行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム連絡会の役員を務め、また県下の福祉ネットワーク作りの構築に向けて同業者等に働きかけるなど地域全体のサービスの向上を目指している。ホームへは同業者の見学も多く、職員も外部研修等での情報交換や交流でサービスの質の向上を図っている。		地域全体のサービスの向上を目指しながら職員の交流や相互訪問の機会を更に多く設けて、同業者相互の更なる向上を目指すことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に数回遊びに来てもらい、ホームの雰囲気になじみながら、馴染みの関係作りに取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者・職員全員が仲間で、共に穏やかに過ごせるように配慮している。また年長者である入居者から料理方法や生き方について学ぶこともあり、双方が支え合っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の関わりの中で本人の意向の把握に努めて、センター方式のシートも活用している。全スタッフは、必ず申し送りや気づきノートに目を通し情報の共有を図って、日々のケアに役立てている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を活用したアセスメント・家族や日々の支援記録から情報収集を密に行い、本人本位の介護計画となるよう、運営者・職員で作成している。また、介護計画に基づいたケアの記録・申し送りを徹底し、質の向上と次の計画の見直しへとつなげている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月毎に定期的に見直されている。また、変化のある入居者には日々の綿密な記録を基に、計画変更決定会議で即、計画の見直しが行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同窓会、誕生日の外出など、特別な外出支援や通院の送迎、また家族との1泊旅行の支援等、本人や家族の希望に沿った柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の入居者が多いので、本人や家族の納得が得られたそれぞれのかかりつけ医と事業者との連携ができており、希望に沿った受診支援が行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの実績は3件ある。事業所では「重度化した場合の対応に係る指針」を作っていて、ケース毎に検討し、本人・家族の希望に対応できる体制となっている。看護師でもある管理者が傍に住んでいるので、夜勤者は心強い。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護の研修を定期的に行い、意識統一がなされている。入居者への言葉かけなどに個人の尊重が周知徹底されている。玄関から中が見えやすい部屋の入り口にはのれんを下げ、プライバシーに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にも掲げているように、ゆっくり、ゆったりをモットーにして、その人のペースでその人らしく暮らせるように日々支援し、席の配置・言葉かけ等も配慮もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・食事作り・片付けなど、できる人が職員と一緒にに行い、語らいながら皆で食事をしている。多彩なメニューは入居者の希望も取り入れ、食事を楽しめる支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日夕食の前後に希望に沿って入浴でき、入浴剤は風呂きらいの人にも好評である。ゆったりした脱衣室には専用トイレもあり、ユニット別に壁面のカラーを変えた(紺色と若草色)浴室は家庭的で、入浴を楽しめる支援となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵手紙教室・カラオケ・花壇の手入れ・家事等々、やりたい人には声掛けをして参加してもらっている。また、お化粧品やマニキュア・喫煙・晩酌等々、個々に生活を楽しむ支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や近くへの散歩等、希望に沿って支援している。また、田園風景を眺めながらの庭での食事やお茶会が頻繁におこなわれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・窓共にオープンな状態で、施錠が本人に心理的圧迫となることを全職員が理解している。入居者が外に出たくなる場面でも、一緒に付き合うケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者と一緒に火災訓練を行い、個人別対応マニュアルを作成している。また、パン・水・おむつ等の備蓄を数日分し、災害に備えている。地域とは防災協定を結んでいて、協力を得られる体制となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個別に記録し、健康管理の支援を行っている。糖尿病の方には、量や献立面でストレスをためないきめ細かな食事療法を職員全体で取り組み、今は快方に向かっている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとの個性が感じられる広々とした共用スペースは落ち着いた雰囲気、調度品・絵画も程よく配置され居心地よく過ごせるよう配慮されている。入居者はリビング、和室、廊下やベランダの椅子と、お気に入りの居場所で心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には各人の使い慣れた家具や品々が居心地よく置かれ、その人らしい部屋作りに配慮している。部屋を間違えやすい入居者の居室にはわかりやすくするためにさりげない目印を付けて間違い防止に配慮している。		